令和8年度も七浦小学校音成分校は複式になります（意見交換会用）



令和8年度の音成分校の児童数は、合計8人（令和7年度は6名）





2年生　３人　＋　1年生　5人　＝　8人

複式学級となり２つの学年を１つの学級とし、先生も１人になります。

1　複式学級とは？

　児童・生徒数が少ない場合、１つの学年の児童・生徒だけでは学級をつくることができません。そこで、同じ学級に2つの学年を組み合わせて作る学級を複式学級と言います。

　これに対して、同学年の児童・生徒で編制する学級を単式学級といいます。

　複式学級になるか、単式学級になるかは、国の学級編制の標準や県の学級編制の基準を元にして判断します。（参考資料参照）

1　複式学級とは？

人数に応じて複数の学年を合わせて一つの学級に



1年生　＋



2年生

1年生を含む場合のみ
　8人以下　→　**複式学級**

合わせて9人以上になったら、単式学級となる。



2年生　＋



3年生

2年生以上の学年
　16人以下　→　**複式学級**

2年生以上は、合計が１７人以上なら単式学級となる。

参考資料

国の学級編制の標準　（県の学級編制の基準）

〈小・中学校〉

同学年の児童で編制する学級	小学校	中学校
	３５人	４０人

※国は小学校６年生までを令和７年度から３５人とするが、
　佐賀県では令和６年度から３５人を実施している。

複式学級	２個学年	１６人	８人
	※１年生を含む場合は８人		
特別支援学級		８人	８人

〈特別支援学校小・中学部〉　６人　〈重複障害　３人〉

2　今後の音成分校の児童数（予想）R7．１２．４現在

学校名	令和 ７年	８年	９年	１０年	１１年	１２年
音成分校	*7*	*8*	9	*6*	*4*	*7*

毎年、転居や支援学級への入級、支援学校への入学のため実際には児童数が少なくなります。そこで、９年度も今の人数を下回り、複式学級が続くことが想定されます。

3　今後の七浦小学校の児童数（予想）R7．１２．４現在

学年　年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
1年生	13	9	3	13	7	7
2年生	10	13	9	3	13	7
3年生	20	15	16	14	7	16
4年生	18	20	15	16	14	7
5年生	11	18	20	15	16	14
6年生	21	11	18	20	15	16
支援学級	2	1				
本校計	**95**	**87**	**81**	**81**	**72**	**67**
1年生	3	5	4	3	4	5
2年生	5	3	5	4	3	4
分校計	*7*	*8*	9	*6*	*4*	*7*
総計	**103**	**95**	**90**	**88**	**79**	**76**

3　複式学級になると学習の様子はどう変わるのか？

（1）担任は1つの学級（2学年）で1人になります。



・担任が1人になるため、次のような2つの形態で学習します。
①担任が、学習内容が違う2学年分の学習を１人で指導する。
②担任が、同じ学習内容で２学年合同の学習を１人で指導する。

①の場合は、同時に異なる内容を指導する方法として、「わたり」と呼ばれる指導を実施します。

（2）国語、算数の授業中は、一人の先生が上学年と下学年の授業を行ったり来たりする「わたり」の授業をします。



前の黒板1年生

○教師が学年間を移動（わたり）しながら　以下の２つの指導を組み合わせて指導します。

・直接指導する「直接指導」
・教師の指示のもと児童だけで学習を進めていく「間接指導」



後ろの黒板2年生

多くの教科は、2つの学年ごとに目標が設定されているため、1・2年生合同で学習することができます。しかし、国語、算数については、だんだんと内容が難しくなっていくように計画されているため、同じ時間に2つの学年が違う内容を学習する必要があります。

（3）生活科、音楽、図画工作、体育、道徳、音楽は、1・2年生合同で学習を行い、2年間で2学年分の学習ができるように計画します。

<table>
<tr><th>学年　年度</th><th>令和6年度</th><th>令和７年度</th><th>令和８年度</th><th>令和９年度</th><th>令和１0年度</th></tr>
<tr><td>令和6年度入学児童</td><td>1年生の内容</td><td rowspan="2">B年度
（2年生の内容）</td><td>本校へ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>令和7年度入学児童</td><td></td><td rowspan="2">A年度
（1年生の内容）</td><td>本校へ</td><td></td></tr>
<tr><td>令和8年度入学児童</td><td></td><td></td><td rowspan="2">B年度
（2年生の内容）</td><td>本校へ</td></tr>
<tr><td>令和9年度入学児童</td><td></td><td></td><td></td><td>A年度</td></tr>
</table>

例えば、令和7年度は、2年生が1年生の内容を学習済みであるため、B年度（2年生）の内容を1・2年生合同で学習します。
1年生は、通常2年生で学習する内容のため多少難しさを感じる場面があるかもしれません。

（４）わたりを行う際の鹿島市の支援の方法として、学習支援を行う支援員の配置を検討しています。









前の黒板1年生

後ろの黒板2年生



担任の先生

・２学年分の学習を計画する。
・２学年分の直接指導を行う。
・学習の評価を行う。



支援員の先生

○児童だけになる活動時間がなくなるように、担任の補助的指導を行う。
・担任の間接指導の間、指導を行う。
・学習評価の補助を行う。

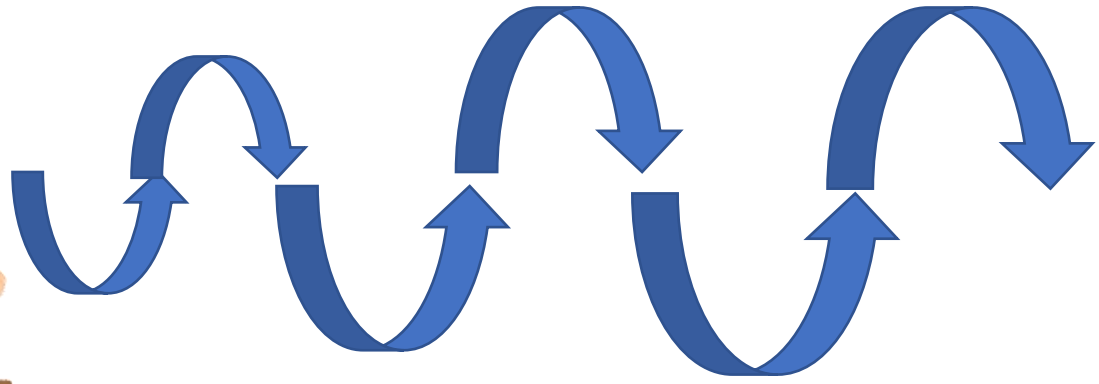
課題として、学習指導を行うことができる支援員を見つけることは大変困難です。そのため、確実に配置ができる訳ではありません。また、鹿島市独自の支援策となり、予算の確保が必要となります。Ｒ７年度より実施していますが、財政課とは３年で本支援も見直す。つまり、Ｒ１０年以降は本格的な複式としての授業開始となる見込みです。

（1）主体的、対話的で深い学びの実現について

現在の学びについての基本的な考え方として、

主体的　対話的　深い学び　の実現がある







意見の交流
多様な考え
新たな発見

少人数学級



学びの固定化

意見の調整
価値の創造
新たな意欲

（2）かしま愛の実現に向けて

『かしま愛』

◇かしまの「ひと」が好き



・仲間、先輩・後輩、地域のおじさん・おばさんと積極的に関わり、共に生きることの心地良さを知る

・地元の産業とそこに携わる人の志を知り、かしまの未来づくりに関わっていきたいと思う

◇かしまの「自然」が好き



・かしまの自然を知り、良さをアピールしたいと思う

・環境問題を自分事として捉え、かしまの自然保全に向けて行動を起こす

◇かしまの「文化」が好き



・伝承芸能や地域行事へ小・中・高の全世代を通して関わり、文化継承の当事者意識を持つ

・エイブル、SAKURAS 等で日常的に文化芸術に触れ、心潤う豊かな生活に浸る

そこに導くかしまの「教育」が好き

教育内容の検討

①地域資源の積極的な活用
②幼保・小・中・高等学校の連携
③キャリア教育の充実

教育の方法の工夫

①「ひと」を生かした教育活動
②「ひと」がつながる教育活動
③多様性への安定した対応

教育環境の整備

① コミュニティ・スクールの充実
②学校のDX推進（未定）
③スクールロイヤーの導入（未定）